

2020 年度薬学部 FD 活動 報告

遠隔授業を効果的に行うために

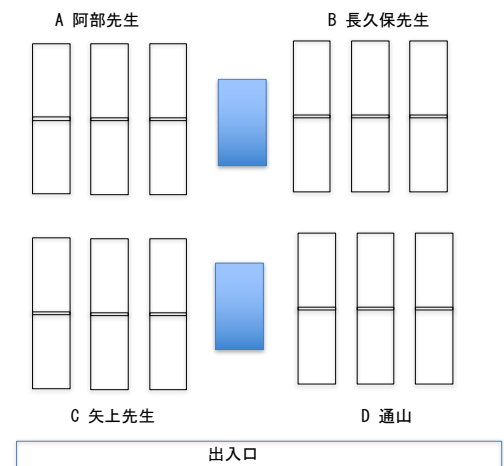
2020 年 9 月 18 日（金） 14 時～15 時 実施

A 阿部、 杉本、 柴田、 川井

B 長久保、 岡村、 山本（泰）、山中、 村重

C 矢上、 山本（直）、 原野、 荒川、 田畑

D 通山、 中村、 酒井、 海堀



★下線：進行役

意見交換のテーマ

1. 前期に実施した遠隔授業について、反省点、良かった点。
2. 前期に実施した遠隔授業について、受講学生、担任学生からの指摘や意見など。
3. 後期授業開始にむけて、薬学部教員で共有したいこと。

共有しておくべきこと” について、要点を発表

2020年薬学部FD活動 A班

2020年9月18日

メンバー： 杉本、柴田、川井、阿部

遠隔授業で使ったシステム

杉本： PowerPoint で動画を作成、Zoom にアップロード、
講義後にClassroom のストリームにもアップロード

柴田： Zoom で、教授室から生中継（紙芝居）、録画を YouTube

川井： Meet で、PowerPoint を使いながら生中継

阿部： PowerPoint で動画を作成、Crassroom にアップロード

1. 前期に実施した遠隔授業について、反省点、良かった点。

いつでも、何回でも受講可能。（先延ばしにして見そびれてしまう。）

家でも受講可能。服装に気を遣わなくてもいい。

外出先や移動中でも受講できてしまう。

学生の反応がわからない。Zoom では顔が見える。あてながらもできる。

Zoom 中に学生がいなくなってしまう。

小さな質問をしながら授業すると学生が聞いてくれる。

普段の講義では一時停止ができないが、遠隔ではできる。

再試など、復習の必要に迫られたときには聞き直せるのがメリット。

スマホとタブレットの併用など、うまくやっている学生もいる。

2. 前期に実施した遠隔授業について、受講学生、担任学生からの指摘や意見など。

頑張る学生と、そうでない学生が二極化する。試験の点数に現れる。

本当に勉強しないといけない学生が聞いているか心配。

プリンターがない学生さんは資料の閲覧が困難。

Google フォームで提出するときに、トラブルがあって未提出かもしれないとドキドキした。システムの問題で小テストなどが未提出になっているかもしれないことを把握してほしい。

実習は実際にやってみたかった。

3. 後期授業開始にむけて、薬学部教員で共有したいこと。

資料の配付を紙でも行えばよい → 改善中

通信環境がまだ悪い学生さんがいる。Zoom 中に回線が落ちる。
システム上のトラブルの有無についてネットや環境について
学生からもう一度意見を集めたい。

チャットを有効活用したい。質問やトラブル報告で。

中間試験を実施したいが、いいですか？

2020/09/18 FD 活動 B班:長久保、山本(泰)、山中、村重

メリット(学生)

- ・ オンデマンド:ライブより配信型のほうが安定している
- ・ 自分のペースで学習できた
- ・ Classroomの連絡だと確実に把握できた
- ・ 先生ごとに配信型・ライブが混ざっていたのがよかった(1年)

メリット(教員)

- ・ 学校に来れなかった学生が参加するようになった
- ・ 自分のペースで学習できていた
- ・ Classroomだと確実に通知できた
- ・ オンデマンド:いつでもどこでも
- ・ ライブ:通常の授業に近い
- ・ iPad は色々できる(時間は多少かかる)

デメリット(学生)

- ・ ライブ:あとから見れない
- ・ 資料をすぐ消されると困る・ずっと見れるようにしてほしい
- ・ MeetかZoomを統一して欲しい
- ・ 情報がストリーム上であったり、課題であったり、先生により異なる
- ・ 紙の資料がほしかった(金銭面、ファイルの管理面など)
- ・ 講義資料へのフォローがなかった(解答を教えてくれなかった)
- ・ 100分が何コマも続くと疲れる

デメリット(教員)

- ・ オンデマンド:いつでもどこでも→緊張感がない
- ・ ある程度の統一したルールがあるとよかった(教員任せのところ)
→ 例えば Classroom の運用にバリエーションがおおきかった
Zoom か Meet か、出席のとり方なども
- ・ 去年の資料がそのまま使えない:遠隔アレンジが必要
- ・ 構造的などを「書く」のがやりづらい

2020/09/18 FD 活動 B班:長久保、山本(泰)、山中、村重

共有しておきたいこと

1. 学生さん目線で考えたとき、遠隔授業についてある程度の統一したルールがあるとよかった。(教員任せのところの修正)
→ 例えば Classroom の運用にバリエーションが大きかった。
 - ・ オンデマンド or ライブ
 - ・ Zoom か Meet か、出席のとり方 や
 - ・ 資料・動画を残す か 残さないか など
2. 学生さんとのコミュニケーションのとり方をどうするか。
 - ・ 放置しすぎると学生さんには疎外感がある。
 - ・ 一方で質問へのハードルが下がった。→ 可能なら対面での質問機会が作れないか？
(オフィスアワー)
3. ずっと遠隔だと学生も疲れる。
4. iPad を学生全員に支給できないだろうか？

二〇二〇年度薬学部FD活動
遠隔授業を効果的に行うために
グループC
矢上、荒川、田畑

1

良かった点

- ・動画（Zoom録画映像）が予復習に活用できる。
- ・再履修科目について、動画で授業を実施できる。
- ・対面授業よりも、遠隔授業の方が教える項目を絞ることができた。

悪かった点

- ・資料配付のみの授業が一部にあった。
- ・学生としては、配布資料の印刷が大変だった。
- ・教員が学生の受講態度を確認できない。

教員で共有したいこと

- ・入学時ガイダンスで、新入生にG mailのログインをさせる機会を設定してはどうか。
- ・配布資料は、可能な限り、大学で印刷して送付してはどうか。
- ・学生から、配布資料に目印（日付やキーワード）を記載して欲しいとの要望があった。
- ・学生としては、できれば遠隔授業は、動画またはZoomを利用して実施してほしい。
- ・次年度以降は、対面授業と遠隔授業のハイブリッド形式で授業を行ってはどうか。2

2020年度薬学部FD活動
遠隔授業を効果的に行うために

D班 中村、酒井、海堀、通山

1. 前期に実施した遠隔授業について、反省点、良かった点。

教員として、これまで触れてこなかった授業方法を実践できた点は、新鮮であったが、手探り状態で本番となり、学生がどのように受講しているか、すぐにはイメージがつかめなかった。

2. 前期に実施した遠隔授業について、受講学生、担任学生からの指摘や意見など。

受信環境により、学生の受け止め方が大きく異なった。

D班

3. 後期授業開始にむけて、薬学部教員で共有したいこと

- 受講環境(受信するデバイスや安定した受信環境)を改善することで解決できる問題も多く、対応策とアドバイスが必要では。
- 学生は複数の教員からの連絡をうけるので、ストリームを流す時刻等についても配慮すべきでは。(他科目の授業中は避ける。)
- クラスルーム(フォーム)での出席確認は、今後も活用可能で有効と考えます。